

	項目	単位	参考基準値： 男性、女性	
全身検査	総たん白	g/dℓ	6.5~8.0	低値：栄養不足、消化吸収障害、重症の肝機能、ネフローゼ症候群 高値：慢性的炎症、多発性骨髄腫、脱水症状
	アルブミン	g/dℓ	4.0~5.5	低値：合成能の低下→肝疾患、栄養失調症、がん、消化吸収障害 体外への消失→ネフローゼ症候群、火傷
	A/G比		1.2~2.0	低値：ネフローゼ症候群、慢性肝炎、肝硬変など 高値：低グロブリン血症
血液	赤血球数	/μℓ	450~500万、 400~500万	低値：貧血 高値：多血症
	ハマトクリット値	%	40~50、 35~45	低値：貧血 高値：多血症
	ヘモグロビン	g/dℓ	14~16、 12~15	低値：貧血（男性11.9以下、女性9.9以下） 高値：多血症
	MCV	μm ³	83~101	
	MCH	pg	27~34	
	MCHC	%	30~36	
	白血球数	/μℓ	4000~9000	低値：ウイルス感染の初期、再生不良性貧血、悪性貧血、膠原病 高値：細菌感染症、白血病、扁桃炎、気管支炎など
	血小板数	/μℓ	15万~35万	低値：肝硬変、再生不良貧血など 高値：本態性血小板血症、慢性骨髄性白血病、真性多血症
肝臓・胆管機能	総ビリルビン	mg/dℓ	0.2~1.0	高値：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、胆のうがん、すい臓がんなど
	ウロビリノーゲン		弱陽性（+）	陽性が高くなる場合：肝障害、溶血性貧血、激しい疲労、便秘 陰性が高くなる場合：総胆管閉塞、閉塞性黄疸など
	AST(GOT)	U/L	5~40	AST、ALTともに高値：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝がん、脂肪肝など AST高値でALT正常に近い値：心筋梗塞
	ALT(GPT)	U/L	5~40	ALT高値：急性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝障害、肝硬変、脂肪肝など
	LDH	U/L	200~420	高値：心筋梗塞、肝炎、肝硬変、肝がん、骨髄性白血病、腎臓疾患、溶血性貧血など
	ALP	U/L	100~360	低値：前立腺肥大、甲状腺機能低下症、 高値：肝臓系疾患、胆道系疾患、骨疾患、潰瘍性大腸炎、甲状腺機能亢進症、尿毒症など
	γ-GTP	U/L	5~65、 5~40	急性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、薬物性肝炎、肝硬変、肝臓がんなど 100~200・・・脂肪肝が進行している可能性あり、アルコール過多の可能性 200以上・・・アルコール、胆石や胆道ガンなどによって胆道が詰まっている可能性 500以上・・・アルコールが原因の場合、よほどの大量の飲酒、あるいは急性アルコール 中毒といったきわめて危険な状態
コリンエステラーゼ	U/L	200~500、 180~450	低値：慢性肝障害、栄養障害など 高値：脂肪肝、ネフローゼ症候群、糖尿病、甲状腺機能亢進症	
心機能 腎機能	CPKまたはCK	U/L	40~250、 30~200	高値：心筋梗塞、筋ジストロフィー、心筋炎、多発性筋炎
	アミラーゼ	U/L	30~160	低値：慢性膵炎の末期 高値：急性膵炎、慢性膵炎、膵がん、耳下腺炎、慢性腎不全など
糖代謝	血糖	mg/dℓ	70~110	低値：インスリノーマ、副腎皮質機能低下症、肝硬変 高値：糖尿病、急性膵炎、膵がん、甲状腺機能亢進症など
	ヘモグロビンA1c	%	4~6	低値：インスリノーマ、副腎皮質機能低下症など 高値：糖尿病、特に急性膵炎、膵がん、甲状腺機能亢進症などによる二次性の糖尿病
脂質代謝	中性脂肪	mg/dℓ	30~150	低値：肝臓病、甲状腺機能亢進症、アジソン病、副腎機能不全、栄養不良 高値：脂質異常症、糖尿病、ネフローゼ症候群、膵炎、甲状腺機能低下症など
	総コレステロール	mg/dℓ	120~220	低値：肝硬変、劇症肝炎、甲状腺機能亢進症、栄養不良 高値：食べ過ぎ、運動不足など 脂質異常症、糖尿病、ネフローゼ症候群、甲状腺機能低下症、動脈硬化など
	LDLコレステロール	mg/dℓ	70~130	高値：II a, II b型高脂血症、甲状腺機能低下症、肝障害など
	HDLコレステロール	mg/dℓ	40~100	低値：動脈硬化、脂質異常症、虚血性心疾患、肝疾患など
腎機能	血清尿素窒素	mg/dℓ	6~20	低値：肝硬変、アルコール性肝炎、など 高値：腎炎などの腎障害、尿毒症など
	クレアチニン	mg/dℓ	0.61~1.04、 0.47~0.79	低値：筋肉量の低下（寝たきり、筋ジストロフィーなど） 高値：急性・慢性糸球体腎炎、急性・慢性腎不全、糖尿病性腎症など
	尿酸	mg/dℓ	3.7~7.0、 2.5~5.4	高値：痛風、腎不全、腎炎白血病、多発性骨髄腫など
	アンモニア	μg/dℓ	12~66	低値：低たん白症、貧血など 高値：劇症肝炎など

特定保健指導基準値

	特定健診項目	単位	基準値	保健指導判定値	受診勧奨判定値	
基本	BMI	kg/m ²		25		-体重(kg)/身長(m)×身長(m)で割り出される肥満度。
	腹囲	cm		男性85 女性90		-おへそ回りの値。内臓脂肪がたまっている可能性がある値。
	血圧 (収縮期)	mmHg		130	140	心臓から送り出された血液が血管を流れるときに、血管の壁にかかる圧力。 収縮期(最高)血圧は心臓が縮んで血液を送り出したときの圧力。血管を広げるため一番強く圧力がかかります。
	血圧 (拡張期)	mmHg		85	90	拡張期(最低)血圧は振動が膨らんで血液を戻すときの圧力。血管が縮むのでかかる圧力は一番弱くなります。
脂質	中性脂肪	mg/dl		150以上	300以上	エネルギー源であるブドウ糖が不足した時にそれを補うエネルギーの貯蔵庫。 体内で取り込んだエネルギーが余った場合、肝臓で中性脂肪が合成され、皮下脂肪や内臓脂肪として蓄えられる。肝臓で増えすぎれば脂肪肝に、皮下脂肪で増えすぎれば肥満になる。
	HDLコレステロール	mg/dl	40~100	40未満	34以下	血液中の余分なコレステロールを回収して肝臓へ持ち帰る働きをする。 「善玉コレステロール」とも呼ばれている。
	LDLコレステロール	mg/dl	70~130	120	140	肝臓で合成されたコレステロールを全身に運ぶ役割をする。 増えすぎると動脈硬化を起こす可能性が高くなり、善玉に対して「悪玉コレステロール」とも呼ばれている。
肝機能	AST(GOT)	U/l	5~40	31	51	アミノ酸の代謝に必要な酵素。 心筋、肝臓、脳、骨格筋、肝臓、赤血球などに多く含まれる。
	ALT(GPT)	U/l	5~40	31	51	アミノ酸の代謝に必要な酵素。 肝臓に最も多く含まれる。
	γ-GT (γ-GTP)	U/l	男性5~65 女性5~40	51	101	たんぱく質を分解する酵素で、アルコールに敏感に反応し、飲酒量に比例して高くなる。
代謝系	空腹時血糖	mg/dl	70~110	100	126	空腹時の血液中のブドウ糖の値。内臓脂肪が蓄積するとインスリンが出にくくなり、血糖値が高くなる。
	尿糖					尿中に糖が出ているかを調べます。尿中の糖は再吸収されて血液に戻りますが、その量が多すぎると吸収しきれず尿中にあふれだしてしまいます。
	HbA1c (NGSP)	%	4~6	5.6	6.1	血液中のヘモグロビンと糖が結合している割合を示した値。 赤血球の寿命が約120日であることから過去1~2か月の平均血糖値を反映している。